

9. スギ耐病性品種の育成（赤枯病，溝腐病）

1. 試験担当者

は

本 場保護部樹病科長	千 葉 修 ほか
東北支場 “ 樹病研究室長	佐 藤 邦 彦 ほか
関西支場 “ 樹病研究室長	紺 谷 修 治 ほか
四国支場保護研究室長	陳 野 好 之 ほか
九州支場保護部樹病研究室長	橋 本 平 一 ほか

2. 試験目的

スギの品種ないし精英樹の溝腐（赤枯）病および各種枝枯性病害に対する耐病性・罹病性を野外調査によって明らかにするとともに、圃場におけるこれら病害に対する検定方法の確立を目標とする。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

本 場

1. 栃木、茨城、静岡県下における野外調査において、主たる病害が黒点枝枯病であることが明らかになった。
2. 調査品種の中でサンプスギが生長が良いにもかかわらず黒点枝枯病にきわめて罹病性であることが注目された。
3. 黒点枝枯病の発生と立地諸環境の間に関係があることがうかがえた。

関西支場

関西林木育種場構内のスギ在来品種見本林ならびに、高野山国有林内に設定してある在来品種の検定林について調査を行なった。

みぞ腐れ病については、クモトオシ、蒲生メアサ、河原山スギ、春日スギ、十方山スギ、尖栗スギ、妙見、イトシロ4号、山口1号、トミススギ、などに感受性が認められた。

また、実生苗植栽林においても個体的な差があるように認められた。

黒点枝枯病についてはワラセバル、河原山スギ、大徳山スギ、二俣山スギ、北勢スギにおいて感受性が認められた。

四国支場

1. スギ赤枯病に対するスギ在来品種および精英樹クローンの感受性について本病汚染苗畑で検定を開始した。
2. スギ赤枯病菌の人工接種に必要な人工孢子形成法について実験を行ない、新たな方法を見出した。
3. スギ薄腐病被害林の実態調査を行ない、造林地での感染と病歴とを逐次解明し、あわせて耐病性個体の検討に着手した。

九州支場

九州林木育種場の選抜24クローンに在来品種23系統について耐病性を検討した。赤枯病から薄ぐされ病に移行している、品種はメアサ、キウラ、アオ、コバアヤ、イワオにみられる。精英樹クローンの赤枯病に対する抵抗性は県伊万里2号県唐津8号などが弱い。

4. 昭和45年度の試験計画

本 場

1. 福島県下における品種・精英樹クローン植栽地の調査
2. 各種スギサシ木品種の赤枯病に対する耐病性の半人工接種による調査
3. サシ木苗に対する接種方法の検討

東北支場

1. 抵抗性個体と感受性個体の選抜と増殖
2. 抵抗性個体と感受性個体の形態的、生理的特徴の比較
3. 精英樹の抵抗性調査

関西支場

- 1) スギ品種の展示林、植栽林において被害の実態調査を行なう。

鳥取県下、兵庫県下

- 2) スギ苗について病害に対する感受性とくにみぞ腐れ病について接種試験を行なう。

黒点枝枯病については、菌の分離、培養試験を行なう。

四国支場

1. スギ赤枯耐病性の圃場検定

- (1) スギ精英樹のオープン種子からの実生苗の検定
- (2) “ さし木苗の検定

2. スギ赤枯病菌の新しい人工孢子形成法の研究とえられた人工孢子の病原性などの検討

3. スギ薄腐病被害林の実態調査

4. 管内の採木、採種圃の病害調査

九州支場

1. 人工接種試験により精英樹10クローン在来品種10種について濃厚孢子接種を行ない耐病性の検定を行なう。

2. 既存の採種圃について赤枯病、薄ぐされ病 発生調査を行なう。